

いきちゃん通信

懇談ありがとうございました。

保護者のみなさまへ

今年も残すところ10日となりましたが、年の瀬のなにかとお忙しい中貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

よく、小学生や中学生の子どもがいる友達に、「懇談に行くのが嫌や」とか言われます。なぜかという、注意しかされないからだということです。注意しかない先生はある意味ハートが強いなあと思う反面、自分はどんな懇談ができているかと振り返るいい時間になります。

私自身、懇談をさせてもらうことを非常に楽しみにしています。なぜなら、生徒ではなく、子どもとしての日常を垣間見ることができるからです。私たちは毎日、今ある立場や役割、環境のなかで生活しています。

学校では生徒としての役割を必死に演じ、家に帰ればスイッチが切れたかのごとく、ダラダラと過ごす子どもになるとのこと。普段、忘れ物をしないような生徒が、家では約束をしてもうっかり忘れてしまうような子どもに変わるそうです。そんな話を伺えると、非常に微笑ましい気持ちになれるし、無理してるんやな～とか、頑張っているんやな～と実感できるのです。

学年末懇談はありませんので、学校での懇談は今回で終わりですが、疑問に思うことや、相談等、気軽にお声掛けいただけたら幸いです。

どうもありがとうございました。

追伸:「先生、体育大会は真面目にやっていましたね」という言葉に爆笑しました。

生徒のみなさんへ

2年生も残すところ約3か月になりました。3年生になる心の準備はできていますか。人間は想定していない出来事や、トラブルに弱い側面があります。そのため、3年生になったらどうするかを一人一人が冬休みの間に想像してほしいのです。(第2回通信で出した、3年生のスケジュール裏面参照)

3年生になったら実力テストが5回、それに加えて学期ごとに中間、期末テストまであります。そして、そこに修学旅行や体育大会、文化発表会などがあり、運動部に所属している人なら夏ごろまでは活動します。加えて、塾に通っているとなると、1日24時間では足りないと感じる3年生が多いようです。

このように、ただでさえが受験というプレッシャーがあるのに、テストが増える、成功させたい行事があるといった多忙な状態が想像されます。

人間このように追い詰められた状態になった時がその人の真価が問われるのです。自分のことしか考えられなくなり、家族に当たる、頑固になる、友達の嫌がることにも気が付かなくなる。もし、いつもと変わった様子の友達が出てきたら、「しんどいのかな」、「なんか力になれるかな」、「気持ちはわかるよ」このような気持ちでその子と接してあげてください。辛い原因が分かり合えると、問題は解決しやすいです。ただし、そんな周りの思いやりの気持ちに甘えないでください

松下幸之助 1日1語より 12月22日 小事を大切に

ふつう大きな失敗は厳しく叱り、小さな失敗は軽く注意する。しかし、考えてみると、大きな失敗というものはたいがい本人も十分に考え、一生懸命やったうえでするものである。だからそういう場合には、むしろ「君、そんなことで心配したらあかん」と、一面励ましつつ、失敗の原因をとともども研究し、今後に生かしていくことが大事ではないかと思う。

一方、小さな失敗や過ちは、おおむね本人の不注意や気のゆるみから起こり、本人もそれに気がつかない場合が多い。小事にとられるあまり大事をわすれてはならないが、小事を大切に、小さな失敗に対して厳しく叱るということも1面必要ではないか。***パナソニックのホームページでも読めます。**